英國ゾウッドストオク氏著 自由貿易、銭道、并商業論 十八百八十年二月

太文宮

114
A3092

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

自由貿易、銭道并商業繁盛ヲ論ス

此論ハ（第一）リベリーション、ヲブ、インターコールス 貿易ノ自由（第二）イニシアチブメント、ヲブ、ウコモーション 運輸通信ノ改良カ終リノ半紀百年ヲ一紀トス間ニ於テ不列顛王國ノ商業及ヒ殷富上ニ及ボシタル影響ヲ側窺スルノ趣旨ナリ

夫レ世人カ所謂保護法例ナル者ニ抗スル、議論カ一度経濟學者ノ書齋及非穀例同盟ノ講臺ヨリ出テ、遂ニ國會院ニ入リテ議題トナリ漸ク嚴然タル法例ト成リ始メタルヨリ爾後當今ニ至ル幾ント將ニ四十年ナラントス而シテ此中二十五ヶ年以上ノ間ハ不列顛農

民ハ世界中他ノ各國ニ對シテ殆ント制限ナキ競爭ノ中ニ孤立セシト雖モ當初論者カ喋々英國ノ後運ニ關シテ前言シタル零落ハ全ク其跡ヲ絶チテ啻ニ英國カ今日ニ生息ヲ存スルノミナラス昔日保護法例ノ下ニハ必ス二三ヶ年ニ一度國會院ノ衆耳ヲ貫ヌキシ慘憺タル農民ノ悲叫モ此期年内ニハ未タ曾テ之ヲ聞シナシ加之一般貿易ノ繁盛ハ千八百四十二年以後ノ年月ヲ以テ寂トナスナリ

然レモ商業及農業生産者ノ爲メ共ニ難澁ヲ來タスヘキ時機將ニ到ラントス今其所以ヲ繹ヌルニ平常農民ノ又死キ家良ノ忠友ナリト自ラ信任シ自ラ宣言スル所ノ一孤ノ紳士アリ而シテ此紳士等ハ此信任ト此宣言トニ背カス寂モ農民ニ有益ニシテ且ツ實行スルヿヲ得ヘキ事業ヲ勸誘スヘキ筈ナルニ不幸ニシテ彼輩カ行爲茲ニ出テス只管農民ヲ誘惑シテ到底行ハルヘカラス行ハルレバ多クハ農民其他全社會ニ有害ナルノ事業ヲ成サシメント欲ス然リ而シテ余ハ其事業ノ有害ナルヿ恐ラク自分ニハ辨知スル所ナラント思推スルナリ斯ノ如ク仮令其業ノ惡意ニ出ツルニ非ストスルモ其事實ニ就テ云フヿハ彼輩ハ斷エス農民ヲ誘惑

シテ其安寧ヲ妨害スル蠹賊タルヲ免カレサリシカ
今ヤ此新タナル機會ニ於テモ百方農民ニ向テ保護法
例ヲ回復スルノ良圖ナルヿヲ說ケリ然レヒ農民等ハ
稍ヤ其利害得失ヲ弁スルヲ以テ容易ニ此等ノ邪說ニ
心耳ヲ傾ムクル者ナカリシニ却テ恠シム國會ノ議員
或ハ政府官吏ニシテ往々力ヲ盡シテ此等ノ說ヲ賛ケ
以テ農民ヲ誘惑セントスル者アルヲ加之製造人及ヒ
職人ノ中ニテ或黨ノ者ハ少クモ自己ノ職業上ニ制限
法ノ回復アランヿヲ願望スルノ意ヲ表セリ
我國ノ新々ニ起リタル保護論者ハ一般ニ人民食用ノ
麵包及諸穀ノ輸入上ニ制限ノ回復ヲ企望スル者ニアラザルカ如シ然レヒ若シ一旦保護法例ヲ回復スルヰハ須ラク之ヲ一統ニスヘキナリ蓋シ斯ノ如ク一統ニ流布シタル毒藥ヲ防止スルノ考按未々整備セサル限リハ德義上ヨリ云フモ政略上ヨリ云フモ決シテ彼輩カ嚴然タル結合協力ヲ許サヽルヘシト雖ヒ孤リ毒藥ノ原素カ所々ニ散在シ且ツ生レナカラニシテ國ノ率先者タリ馭御者タルノ地位ニ卓立スルノ紳士カ腦力ヲ盡クシテ此原素ヲ養生スルノ一事ハ以テ該國ノ安危興亡ニ関スル程ノ力アキモ恐ラクハ聖世ノ一瑕瑾

ト云テ可ナラン夫レ商業自由ヲ守護スルノ堡壘ハ公然タル攻撃ニ對シテハ實ニ堅牢不拔ノ者ナリト雖モ鑛業等ノ方角ヨリシテ冥々ノ内ニ來ル所ノ暗擊モ亦々侮ルヘカラサル者アリ故ニ時々此堡壘ノ强弱ヲ測量シ嘗テ時ト勞トヲ消費シ議論ヲ張リ企策ヲ巡ラシ遂ニ成シ遂ケタル保主主義ヨリ成立セシ變革即チ貿易ノ自由ニ依テ收得シタル利益ヲ確カニ我カ記憶ニ止ムルヿ最モ緊要ノ事ナリトス而モ若シ最初此利益ノ實狀及廣狹ヲ判然我目前ニ寫出スル時ハ愈以テ此記憶ヲ遠永ニ失ナハサルヿヲ得ヘキナリ

今自由貿易ノ利益ヲ論セントスルニ當テ大ナル困難事アルヲ見出シタリ之レ余カ此紙上ニ於テ論セント欲スル所ナリ夫レ新例發行アリテ商業其自由ヲ得ルニ至リシヨリ爾來國家未曾有ノ大進捗ヲ效シタルハ人皆ナ之ヲ許スト雖モ他ニ亦タ全シク此進捗ヲ助クルノ事物カ全年月間ニ働キヲ作シタルカ故ニ通例最モ剛氣ニシテ且ツ質樸魯鈍ナル保護論者中ノ或人ハ往々此良菓ノ全部ヲ將テ此等他ノ事物就中最モ有カナリシ錢道ノ功益ニ帰セントセリ蓋シ此等ノ事物カ一般ノ結果ニ對シテ大ナル助力ヲ与ヘタルハ最モ熱心

ノ自由貿易論者ト虽モ許サヽルヲ得サル所ナリ然ラハ則チ余ハ何等ノ方法ヲ以テシテ自由貿易ト他ノ幾多ノ事物トノ間ニ此大進捗ヲ效シタルノ面目ト信用ヲ適當ニ分配スルヿヲ得ヘキ欲之レ余カ大ナル困難事ト為ス所ナリ

余考フルニ吾人カ今日ノ有様ニ於テハ如何ナル手段ヲ以テスルモ精密ニ之ヲ分配センヿハ到底出来得ヘキヿニアラスト虽モ内其物ニ就テハ大ナル實益アリ外実際ノ目的ニ適用シテ大ナル功用ヲ有スルカ如キ稍ヤ真理ニ近キタル者ヲ見出サンヿハ決テ出来得サルヿニアラサルカ如シ但シ内其物ニ就テノ實益トハ何ソヤ曰ク法例大變革ノ實果ヲ測量スルカ為メニ有用ナル各々ノ方法ニハ必ス附著セサルヘカラサル所ノ性質ヲ云フナリ外實際ノ目的トハ何ソヤ曰ク終リノ四十年間ニ於テ著ルシカリシ我國商業ノ繁盛ヲ效スニ自由貿易ノ力少シモ関カラサリシト主張シ黨派ノ私心ヲ以テ彼輩カ旗面ノ題表タル保護法ノ回復ヲ實行セントスル所ノ論者ノ嘴ヲ閉鎖スルニアルナリ

余輩ハ先ツ第一ニハ保護法例カ國富ノ繁殖ヲ全ク妨

止ストスルモ（懈タラスルノ）國策トシテ如何ニ充分
其務ヲ尽シタル欤ヲ略示シ以テ我議論ノ基礎ヲ確立
センコトヲ勉ムヘシ
第二ニハ我重要ノ論旨ニ重ニカヲ添ユル所ノ緊要ナ
ル實事即チ未タ法例カ商業自由ヲ助クルニ至ラサリ
シ以前ヨリ已ニ鐵道ノ開業アリテ特ニ二三ヶ年間ハ
充分旺盛ノ働キアリシト雖モ當テ今日ノ如キ商業ノ
繁盛ヲ效サヽリシトノ實事ニ依リ以テ我說ヲ鞏固ナ
ラシムルコトヲ勉ムヘシ
第三ニハ充分ニ好ク注意シテ或ル重立タル時ニ當リ
法例ニ依テ擧行サレタル自由貿易各次實行ノ影響ヲ
表明スヘシ蓋シ爰ニ至テハ鐵道ノ擴張ト制限法例ノ
廢止トノ間ニハ一ハ年々一樣ニ伸長シテ斷ヘス働キ
ヲ續クル所ノ者ニシテ他ハ只ニ國會院ノ或會期（自由法例）
ヨリ次ノ會期（自由法例ヲ擧行セシ次ノ會期）ニ至ル迄ノ數年間
ニノミ限ル者ナルノ大差違アルコトヲ知ルヘシ
第四ニハ自由貿易ノ法例ト称スル者ノ直前各次ノ擧
行ニ依テ商業上ニ生シタル影響ヲ測量スヘキ當時ノ
目的ニハ充分精密ナル量器トシテ自由法例絶斷時限
ノ狀況ヲ數樣ニ表示セントト欲ス

第五ニハ千八百六十年発行ノ法例ハ殆ント闔國中ニ保護制度ノ跡ヲ斷タシムルノ功ヲ完フセシカ故ニ余輩ハ先ツ此處置カ充分ノ発達ヲ得テ其功ヲ顕ハシタル時期ヲ定メサルヲ得ス但シ余ハ此處置カ充分ノ功力ヲ顕ハシタルハ方ニ千八百六十六年ノ末路ニアリトナス而シテ又其後数年間ハ減税ノ為メニ國中幾干ノ救助ヲ得タリト雖モ直接ニ保護制度廃止ノ利益ヲ証明スヘキ事ニ至テハ絶テ何事モナキヿヽリキ然ルニ銭道ハ此数年間ニ於テモ断ヘスニ其事業ヲ伸長シ且又電線ノ通信モ弘ク盛ンニ行ナハレタリ故ニ余輩ハ爰ニ於テ彼ノ千八百三十二年ノ状況ニ於ケルト等シク我論自ニカヲ與フルノ確証ヲ得ルナリ如何トナレハ則チ此数年間ニ於テハ大ニ商業ニ自由ヲ與フ一所ノ新法例ノ助ケナクシテ孤リ銭道カ其旺盛ニ趣キタル時ノ状況如何ヲ見ルヿヲ得レハナリ

夫レ少シク代数學ニ通スルノ讀者ニ向テ二個ノ不知数ヲ含ミタル一個ノ方定式ヲ解クンニ他ノ方定式ノ助ケナカルベカラサルヿヲ説知スルハ実ニ無用ノ勞タルヘシ今余カ爰ニ明析センヿヲ企タツル所ノ千八百四十二年ト譬ヘハ千八百六十六年トノ進歩比較ノ

ヒナモ亦タ然リトナス若シ他ニ只一個ノ不知数ヲ含
ミタル一方定式ヲ得來ルトキハ則チ直地ニ其不知数ノ
價格ヲ明知スルヿヲ得ヘシ而シテ又此甲不知数ノ價
格ヲ以テ第一方定式中ノ甲記号ニ置換ユルトキハ以テ
乙不知数ノ價格ヲ測知スルヿヲ得ヘキナリ但シ千八
百三十年ヨリ千八百四十二年ニ至ル十二年間ノ景状
ハ即チ余カ爰ニ熱望スル所ノ一個ノ方定式ヲ備フル
者ト做スヘシ何トナレハ則チ當時ハ未タ自由貿易ノ
施行ナキ時ニシテ其社會進捗ノ先導ヲ為ス者ハ単ニ
鐵道一個ニ限リシカ故ニ他ノ事業ノ助ケナキ時ハ鐵
道純粋一個ノ功力如何アルカヲ決定スルヲ得レハナ
リ

右ハ余カ議論ノ順序趣向ヲ示ス者ニシテ又據メ余カ
手中ニ属スル所ノ材料及ヒ議論中ニ用ユル所ノ詞ヲ
示サヾルヘカラス

即チ其材料ノ重ナル者左ノ如シ

第一　鐵道乘客及貨物運賃收入報告書

第二　所得税報告書

第三　内國物産輸出報告書

偖此材料ニ就テ議論ヲ始ムルノ前ニ當テ先ツ余カ議

論ニ用ヰル所ノ詞ニ就テ解説セサルヘカラス蓋シ
左ノ詞ハ精密ニ分析スル中ハ充分ニ数多事業ノ意味
ヲ通暁セシムルヿ能ハスト雖モ簡易便利ノ為メ須ラ
ク夫々双方ニ属スル事業ヲ包括スルノ詞ヲ用ヰルヿ
緊要ナルヘシ故ニ今一方ニ属スル者ヲ法例事業ト呼
ヒ他ニ属スル者ヲ交通事業ト称スヘシ
夫レ法例事業ハ其性質タル総テ反質ノ者ナリトス蓋
シ我祖先ハ人間利益ノ為メニ思考ヲ費ヤスノ極屢々
睡眠ノ恐ルヘキ頂点ニ達セリ祖先等惟ラク物産ヲ依
テ交通貿易ヲ得ルノ區域通路ヲ閉塞減縮スルヿハ人
間ニ取テ大ナル利益ナルヘシト此主義ヲ以テ政務ヲ
處理セシカ故ニ當時厭フヘキ数多ノ條例ヲ設ケ以テ
人及貨物ノ運輸ヲ阻渇シ出板ヲ指シテ危害ヲ含ムノ
仕組ト做シ新聞紙ノ如キモ多ク法例ノ箝制ヲ蒙リ夫
レカ為メニ其價貴トク其数乏少ナルニ至レリ加之私
用ノ通信、貴族、官吏及國會議員ニ特許ヲ與ヘテ其自
身及朋友親戚ノ為メニハ郵税ヲ除免シ却テ商家等ノ
通信ニハ重税ヲ課シ而シテ凡ソ此等ノ事務ニ関シテ
ハ一般人民ノ能ク干渉スヘキ所ニアラスト做セリ又
一般文學ノ進歩モ彼ノ紙税及廣告税等ノ為メニ大ニ

阻隔セラル、所アリタリ

夫レ昔日ハ此ノ如キ事狀ニテアリシカ故ニ余ハ彼ノ書狀、文書、見本類及印刷物ノ郵稅ヲ減セシコト及從來印刷物ニ課シタル諸稅ヲ廢止セシコトヲ以テ通常ニ自由貿易法例ト稱シル者ノ條目中ニ編入スルナリ今斯ノ如クシテ商業上一般ノ思想ノミナラス百種ノ通信及公告ノ自由ヲ得ルニ至リシ者ナレハ兎ノ此等ノ大處置ハ彼ノ保護稅廢止、收入法例ノ省約及ヒ航海條例取消等ノ者ト併ヒ立テ共ニ營業自由ノ大典ヲ編立スル者ト做スベシ今ヤ吾人ハ此大典ノ風下ニ生息シ以テ心手ノ自由ニ復シ世界萬國ト限リ无キ競爭ノ中ニ立チ遂ニ其結果トシテ他ノ各國ニ卓越シ前時ニ比スレハ較々鞏固ナル商業ノ第一位ヲ占ムルニ至リシナリ

余ハ右ノ如ク當テ不正ニ剝奪セラレタル實形事業ニ關シテノ自由ヲ回復スル所ノ百種ノ反質處置ヲ將テ總テ一條目ノ中ニ收錄スルヿヲ得タリ偖工業世界ニ於テ腦髓ノ働キニ關シタル百種ノ制限ヲ總括センカ為メニ今此大事業ニ名スルニ交通自由等ノ名ヲ以テスルヿ至當ナルヘシト雖モ余ハ又詞ノ簡易ナルト世

人ノ習熟トヲ謀リテ既ニ知ラレサル所ナキ自由貿易ノ総名ヲ附スヘキナリ

然リ而シテ今余カ此交通ノ自由ト恰カモ對比センヿヲ勉ムル所ノ他ノ一方ニ於ケル数多ノ事業ハ其性質却テ直質ノ者ニシテ反質ノ者ニアラス且又此等ノ事業ハ総テ実形上ノ者ニシテ無形上ノ者ニアラス而シテ此数多ノ事業ハ其種類甚タ多シト虽モ其中ニ就テ重ナル者蒸氣機械ヲ將テ鐵道ニ合用セシヿニアリトス蓋シ此一大工夫ハ全ク雄才人ノ力ニ依ル者ナルヤ又疑ヲ容ルヘキニアラス彼ノコデン氏（氏ハ初メ商業ノ為メニ諸國ニ遊歴スルノ業ニ従事セシカ遊歴中大ニ穀例ノ非ナルヿヲ悟リ其後主トシテ之ヲ論撃セシカ千八百四十一年ニストツクホルトノ議員ニ撰マレ國會ニ於テ愈其説ヲ固守セリサー、ロベルト、ピールノ如キハ穀例ヲ取消ヲ以テ一ニ氏カ功ニ帰シタリ）ハ雄才オナル一行商ニ過キストシテ蔑如ヲ受クルト虽モジヨージ、ステヘンソン氏ハ較々正シク雄才オナル工師トシテ称セラル、ヿヲ得タリ余ヤ氏ノ後年ニ於テ聊カ氏ヲ知ルノ榮ヲ得タリシカ今ヲ距ルヿ幾ント四十年ノ前ニアリキ抑モ此驚歎ニ堪ヘタル大企業ハ実ニ千八百二十五年ノ末ニ方テストツキン及ダーリントンノ間ニ開行セシヲ以テ権輿トス當時余ハ父ノ側ニ在テ或方ヨリ父ニ加入ヲ勧メ

ンカ為メニ贈ラレシマンチエストル及リバプール間ノ鐵道築造雛形ナル機械ニテ列車ヲ挽クノ圖ヲ見テ甚タ奇異ノ觀ヲ為セシカ此圖今尚ホ記憶ニ殘レリ其後原造ノ短線ヲ以テ試驗中ニテアリシヤハ恰モ此企業ハ一時眠了セシ如ク見ヘシカ再ヒ千八百三十年ニ於テ覺起シ来リ遂ニ今日ノ如ク我合衆王國財産ノ十二分一ヲ使役スルノ盛ンニ至レリ然リ而シテ此年ノ夏ニ係ルホスキソン氏ノ死氏ハ千八百二十三年商務卿ニ任セラレ風ニ政事学ニ長スルヲ以テ名誉ヲ得且主トシテ自由貿易ヲ賛成シ商業上ノ制限ヲ論撃セシ人ナリシカ遂ニ千八百三十年リバプール及マンチエストル間ノ鐵道開業ノ砌ニリバプール近傍ナルバークサイドニ於テ蒸源車ニ

觸レテ非命ノ死ヲ為セリ追懷シテ常ニ感觸スル所ナキ能ハス此不幸ヤ其直接ノ原因ヲ言ヘハ恐ラクハ氏カ神経ノ組織ヲ壞裂シ以テ其精神ヲ痿縮セシニ依ルナルヘシ蓋シ此事タルヤ蓋シ又偶然ニアラサルカ如シ抑モ彼人ノ賛成ヲ得テ此大熱心ノ事業ヲ遂ケントスルニハ恰モ人間ノ犧牲ヲ要シ且其人タルヤ既ニ主トシテ自由貿易ニ加擔シテ充分ノ功勞ヲ尽シ之レカ為メ恐ラクハ當時ニ例シナキ惡評ヲ受ケ而モ今日ヨリ之ヲ見レハ畢竟実形進歩ノ為メニ死シタル寃死人ト称スヘキ頴敏卓越ノ経済學士ニアラサレハ不可ナルモノ

今此大事業ニ亞クニ（第二）電線ノ工夫（第三）木製船艦ノ
銃製ト變レテヨリ渡航ノ往復甚タ速カニシテ且其日
数ヲ違フヿナク恥茫タル恐ルヘキ大洋ト雖モ大ナル
蒸氣船ニ駕シテ之ヲ経過スルヤハ聊カ危害ノ恐レナ
キニ至リシ事（第四）銃道築造ノ所ヨリ常ニ駸々トシテ
間断ナキ諸機械ノ改良進歩（第五）自然學愈開ケ千状万
態以テ生産ノ費用ヲ省キ品質ヲ改良スルノ一アリ偖
此等原因ノ中終ノ二目ハ新規ニ創起セシ者ニアラサ
レハ首ノ三目ノ如ク余カ議論ノ要部ニ入ラサル者ナ

リ尤モ此二目モ其後ノ進歩ニ由テ幾分カ其功労ノ地
位ヲ殘サヽルヘカラスト雖モ要スル所寧ロ枝葉ニ属
スルカ故ニ只其主要ナル者ヲ以テ交通互市ノ自由ニ
對比シ総括シテ之ヲ運輸通信ノ改良ト称スヘキナリ
即チ路途ノ遥遠ナルト加フルニ山海ニ阻隔セラレ從
来ニハ運輸通信ノ便ヲ妨ケタル阻礙ヲ絶滅シ及人間
思想、貨物、等ノ以前ニハ寡モ遠隔ナリシ者ヲ互ニ近接
スルヿヲ得セシメタルヲ云フハ意ナリ然レトモ就中銃
道ノ大進歩ハ主タル眼目ノ實事ナレハ簡易ノ為メ我
日前ノ事業ヲ將テ総テ之ヲ銃道ノ事業ト呼ヒ且區別

ふ易スカランカ為メ其時限ヲ指シテ直チニ鐵道時限ト書スベシ

然ラハ則チ今ヤ余カ目前ニ來リタル問題ハ成ル可ク的精密ニ談二個ノ大事業則チ交通互市ノ自由及運輸通信ノ改良トノ間ニ我國実形進歩ヲ效タシタル勲功ヲ分配スルノ割合ヲ定ムルニアリ

次ニ論スヘキハ余カ議論ノ原素トナス所ノ材料ノ出ツル所ニアルナリ但シ余カ議論ノ重ナル器械ハ一方ニ於テハ鐵道旅客貨物運賃收入高ト他ノ一方ニアリテハ自由貿易法例舉行年月ニ就テ其詳細ヲ檢査スルニアリトヽ雖而シテ其次ニハ甲若クハ乙事業カ各々特ニ輸出上ニ感動ヲ興シタリト做シ能フヘキ時期ニ関シタル我輸出上年々ノ増殖即チ進歩ノ割合ニ注目スルニアルナリ蓋シ今此場所ハ或ル一般ノ規則ヲ畫定スルニ適當セル者ナリトヽ雖シ即チ左ニ

第一　鐵道事業即チ運輸通信ニ関シタル原因ヨリ生スル所ノ刺衝ハ要スルニ稍ヤ規則立テ年々擴張ノ進路ニアシカ故ニ其功労ノ増進ハ實際ノ目的ニ向テハ年々連續セシ者ト見做スヿヲ得ヘキナリ

第二　自由貿易事業即チ人間ノ間ニ交通互市ノ法例

之ヲ自由ニ基キタル刺衝モ亦タ制限ノ新タナル廢弛ニ依テ次第ニ進捗ノ途ニアリシト虽モ其功勞ノ増進ハ連續セシ者トナスヘカラス只三ケ年或ハ四ケ年ヨリ六ケ年或ハ七ケ年ニ至ル數時限ニ於テ別々ニ之ヲ蒐集シ以テ其等ノ時限ニ就テ夫々ニ價ヲ定ムヘキナリ

第三　該國ヨリ出ツル所ノ英國物産輸出ノ増殖ハ仮令等シク充分ニハ該國総体殷富ノ指數トナラサルモ概シテ今余カ爰ニ測筭セント勉ムル所ノ比較功勞ノ充分ナル指數ト見做スヿヲ得ヘキナリ

今右ニ示シタル一般規則ハ其性質ニ於テ充分明亮ノ者ニアラサルカ故ニ夫々ニ就テ少シノ註解ヲ要スヘキ者ナリ

第一　第一ノ規則ニ関シ讀者ハ鐵道時限中ニ開業セシ各年里數ノ最大數ト最小數トノ間ニ僅々數年ノ間ニ斯ノ如キ大ナル差違アルヲ見テ驚クヿヲ要セス其等差違ノ中最モ大ナル者ハ却テ千八百四十五年及千八百四十六年ニ於テ大ナル投機起業ノ流行セシ後ナル千八百四十八年ニ於テ開業セシ千百八十二里ト千八百五十五年ニ於テ開ケシ二百二十六里トノ差違ニ

アレハナリ然レモ千八百四十八年ノ如キ甚タ巨大ナル擴張ハ畢竟鐵道歴史中例外ノ場合ナレハ政事上困難事ノ為メニ其年間ノ輸出ヲ甚タ低度ニ止マリタルモ敢テ觝觸セシムトナスヘカラス蓋シ鐵道カ一般ノ進捗ヲ促カシタルノ度ハ如何ニ低微ナル欵ハ左ノ箇短タル表ヲ以テ知ルヘキナリ

開業ノ年 各年十二月三十一日迄トス	開業鐵道里數	前年期ヨリ増線	前年ヨリ次年ニ至ル年數	増線一ヶ年平均
千八百四十二年	一、八五七			
千八百四十八年	五、一二七	三、二七〇	六	五四五
千八百五十二年	七、三三六	二、二〇九	四	五五二
千八百五十九年	一〇、〇〇二	二、六六六	七	三二三
千八百六十五年	一三、二八九	三、二八七	六	五四九
千八百七十八年	一七、三〇〇	四、〇〇一	一三	三〇九

乗客及貨物運賃。毎一里收入高ハ年々線路ノ増加セシ割合ニ比スレハ千八百三十七年以後ノ較々高低少ナカリシ千八百四十二年ニ於ケル其收入高ハ幾ント二千三百パウンドニシテ二千パウンドト千九百五十パウンドノ間ニ上下セシ千八百四十八年ヨリ千八百五十年ニ至ル年間ヲ除ケハ未タ嘗テ二千パウンドノ下ニ落シコトナク其後ハ又漸々ニ増殖シテ千八百七十三年ニハ

三千四百六十二パウンドニ騰リ千八百七十八年ニ至テハ三千四百八十五パウンド迄ニ達シタリ

右ノ数時限ノ中ニハ運賃年々ノ増殖カ平均四十ペルセントト以上モ低落シタル時限アリシト雖ト此時限（千八百五十二年ヨリ仝五十九年ニ至ル）ニハ海外取引ニ手弘ク電線ヲ適用セシ事アリシカ故ニ年々親規運賃ノ増殖カ鉄道事業ヲ擴張スルノ功労ヲ於テ変更アリシト做スヘキ充分ノ所謂ナキナリ

第二　自由貿易事業ヲ以テハ場合仝ク異ナル所アルナリ夫レ自由貿易ノ部中ニ属スル所ノ事業ハ年々一様ノ形状ニシテ且発生ノ時限ニ定規アレカ如キ者ナラス只其時々ニ発生スル事業ハ三年四年五年若クハ七年ノ間隙アリテ隔離シタル二三格別ノ年ニ於テ挙行アリシ者ニシテ其間隙ノ年間ニハ殆ント睡眠ノ有様ニ陥ヒリ少シモ其力ヲ顕ハス所ナシト云テ可ナリ爰ニ於テ余ハ自由法例及之レニ由リ起リタル商業便利ハ時々ノ増殖カ若シ鉄道便利ノ幾ント間断ナキ働キノ下ニ并ヒ進ムヤハ如何ニ商業上ノ取引ヲ迅速ニシ且ツ擴張スルニ至ルトキ乎ヲ注視セサルヘカラス而シテ余ハ斯ノ如クシテ稍ヤ夫々二者ノ功労ニ故ス

ヘキ刺衝カノ部分ヲ測算スルヿヲ得ヘキナリ先ツ革
一年々繁盛ノ幾千部分カ鐵道ノ功勞ニ帰スヘキ乎ヲ
見出シ得テ而シテ後此年々ノ繁盛カ自由貿易事業ノ
各次増加ニ由テ如何ニ大ニ擴張シタル乎ヲ注視シ以
テ自由貿易事業ノ一般ノ功勞ニ関シテ稍ヤ信ヲ措ク
ヘキ見込ヲ立テ得ヘキナリ
偖千八百四十二年ノ前ニハ我計算ノ中ニ採ルニ足ル
ヘキ自由貿易一箇ノ事業モ発生シタルヿナク當時ニ
擧行アリシ除税モ（除税ノ緊要ナラサリシ穀物ノ場合
ヲ除ク）同年ノ七月及十月迄ハ実際ノ影響ヲ顯ハサヾ

リシカ故ニ余ハ千八百四十三年ヲ以テ新税則ト名ケラ
レタル自由法例ノ第一擧行ノ年ト做スナリ
第二ノ擧行ハ千八百四十五年ノ新税則トナス
第三ノ擧行ハ千八百四十九年ノ始メニ於ケル穀例取
消及同年ノ國會集合期中ニアリシ航海條例ノ取消ト
ナス
第四ハ石磯税ノ取消及其他數個ノ変革ヲ起シタル千
八百五十三年ノ新税則トナス
第五即チ最後ノ一大擧行ハ千八百六十年ノ関税徴收
條例ニシテ遂ニ左記ノ數主義ニ一般ノ影響ヲ及ホシ

タリ即チ

第一 赤製品及食物類又ハ製造品ニハ保護ノ意ヲ含ミタル税金ヲ課スヘカラス

第二 政府ノ收入ヲ補フノ目的ニテ海関税ヨリ徴收セサルヘカラサル金額ハ成ル可ク丈ケ最少ノ品数ニ課スヘシ

紙類ニ課シタル國産税ノ取消ハ千八百六十年ニ係ル歳計表ノ一部分ヲ作セリ蓋シ此事件ハ嘗テ余モ関係シタル烈シキ國會ノ争議ヲ惹起シ貴族院ノ新議ニ由テ千八百六十一年迄延期シ遂ニ其時ニ至テ貿易中ノ必一大品ヲ自由ニシテ安價ナル出版物ヲ充分ノ発育ヲ許スニ至レリ然レトモ外國紙類ノ上ニ課シタル保護税ハ千八百六十年ニ於テ廃サレシカ故ニ當時ノ目的ニ向テハ之ヲ千八百六十年ニ属スル者ト考ヘテ可ナリ

然テハ則チ上ニ記シタル数年期ハ自由法例ノ新タナル有力ノ事業カ始メテ我社會中ニ於テ其効力ヲ顕ハシ恰カモ大河ノ決スルカ如ク大英國商業ノ水流ヲ彭張セシメタル時期ヲ指示スル者ナリ

第三 今ヤ余輩ハ我大英國物産輸出ノ高ニ依テ二者

ノ功労ヲ測筭スヘシ然レモ此輸出高ヲ以テ該國般
富ノ指数トナスヘキノ區域ヲ判然ナラシメンカ為
メニ尚ホ一層ノ説明ヲ緊要ナリトス
蓋シ此等ノ輸出高ハ該國ニ行ナハルヽ外國貿易ノ高
ヲ測レヘキノ量器ニシテ又該貿易ノ高ハ以テ数ケ年
平均利益ノ高即チ該貿易ニ因テ生シタル國富ノ増殖
幾千ナルカヲ量ルノ量器トナシ得ヘキ者ナリ然レモ
外國及殖民地ノ商品輸出ハ我計筭中ニ入レサルヘカ
ラサル者ニアラサルカ如シ何トナレハ則チ第一千八
百五十四年ニ至ル迄、此輸出ノ真ノ價格判然ナラサ

ルシカ故ニ精密ニ之ヲ筭入スルヿ能ハサルト第二此
等輸出品ノ進退ハ重モニ大英國物産輸出ノ進退ニ
ニスルカ故ニ其一般影響ニ感動ヲ起スヿ巨大ニアラ
サルトノ二個ノ道理アレハナリ
然レモ外國貿易ハ内國商業ヲ量ルヘキ精密ナル試驗
器ニアラス故ニ一國ノ般富上ニ於ケル総体ノ増殖ヲ
量ルヘキ充分ノ量器トナスヘカラサル者ナリト云フ
モ可ナリ故ヲ以テ余ハ爰ニ単ニ輸出高ニ依ルヨリ尚
ホ一層精密ニ殷富ノ増殖ヲ量ルヘキ量器ナル所得税
ノ増殖ニ兼チテ注視スルヿヲ便利トナスヘシ即

チ輸出高ハ

千八百四十二年　四七、二八四、〇〇〇磅

千八百七十八年　一九〇、〇四五、〇〇〇磅

即チ千八百七十八年ニ至テ精密ニ四倍シタリ

又所得税ノ高ハ（元高ノ増減ニ相當ノ餘地ヲ與ヘ）左ノ如シ

自千八百四十二年至仝四年　七六八、〇〇〇磅

自千八百七十年至仝八年　一、九一一、〇〇〇磅

即チ之ヲ詳言スレハ輸出高ニ於テハ二カ八ニ増殖シ所得税ニテハ僅カニ五ニ増シタル割合ナリ

所得税ナル者ハ只ニ社會中ノ稍ヤ富豪ナル部分ニノミ関係ヲ有スル者ナレハ所得税ヲ拂ハサル中等以下ノ人民カ財産上ノ増殖ニ至テモ尚ホ能ク所得税ノ指明シ能フヘキ者ナル歟余ノ大ニ疑ヲ容ル、所ナリ但シ幸ニシテ労働ノ時間ハ減シテ却テ労働者ノ賃銀ハ増シタリト虽モ今人口ノ増殖ヲ考ヘノ中ニ採テ之ヲ論スル牛ハ千八百四十二年ノ全社會ノ総体殷富ヨリ比シタル彼外國貿易ノ場合ニ於ケル四倍ニ對スルノ割合ハ之ヲ寡多ニ積ルモ敢テ二倍以上トナス能ハサルナリ

又外國貿易ハ多少内國各科ノ營業ヲ企業ヲ勸奬スル所ノ者ニシテ地所家屋ノ價格ニ於ケル增長ハ概子皆之ヨリ生スル者ナレモ余カ愛ニ假リニ定ムルヲ要スル所ノ者ハ外國貿易ハ殷富ノ重ナル原因ナリト云フノ一点ニアルナリ而シテ斯ノ如クシテ余カ外國貿易ヲ以テ此原因カ今日迄ニ如何ナル影響ヲ受ケタル欤ヲ知ラント欲スル丁ノ敢テ理ナキニアラサルヲ明ニセント欲スルナリ

然リ而シテ立法事業及運輸事業ナル二個ノ大原因ノ外ニ尚又時アリテ遇発シ敢テ生滅定マリナキ所ノ他ノカアリ以テ外國貿易ノ盛殖ヲ変更スレ丁アリ其カノ重ナル者左ノ如シ

第一　凶作　第四　戦争

第二　商業ノ驚慌　第五　政治変革

第三　商業不景氣　第六　棉ノ不作

而シテ第七ハ其性質ニ於テ齊シク遇発ノ者ナレモ強ク貿易ヲ助ケタル者即チ

第七　巨大ナル租税免除

蓋シ從前ニアリテハ凶作ハ收入ノ缺乏ヲ意味スル者ナリシカ今ヤ然ラス何トナレハ則チ麺包ノ價ハ外國

輸入セシ由ナリ。（アルカ故ニ仮令ヒ年ニ過アモ決シテ）非常格外ノ騰貴ヲ來タ「ナク且ツ勞働
者ノ增加シタル財産ハ曾テ二三十年以前ニハ想像ニ
モ入ラサリシカ如キ確固タル購買力ヲ生セシメタル
ハナリ故ニ外國貿易ニ關係ヲ有スル此華二段ノ力ニ
關シテハ只偶々此力ガ計筭上ニ影響ヲ及ボス程ニ強
勢ナル時ニ限リ處々ニ論及ネル所アルヘキナリ然リ
ト雖モ此力ヤ常ニ一個若シクハ數個存在スルアリテ
多少我貿易ノ盛衰ニ干渉スル者ナレハ余カ最後ノ結
論ニ至テモ亦多少偏靴ノ歎ナキ能ハスト雖モ要スレ
ニ議論ノ結果ハ此華計筭ニ漏レタル力ノ為メニ各ノ

場合ニ於テ必ス相當ノ餘地ヲ殘セシ者ナリ
此等數多ノ解説ヲ以テ最早充分ノ用ヲ為スヘシト考
フルカ故ニ今ヤ余輩ハ章首ニ於テ略述セシ四ケ目ノ
下ニ著論スヘシ
第一　余ノ保護例カ國民實形ノ繁盛ヲ進捗スルノ力
トシテ全々其用ヲ為サヾリシ「ヲ示サントスルナリ」
當千九百年代ノ初ニ於テハ我輸出ハ特ニ戦爭ノ影響
ヲ受ケテ其高甚タ不規則ニテアリキ千八百年ニ於テ
ハ其高三千九百五十万「パウンド」ニシテ千八百五年ニ
於テハ三千七百二十五万「パウンド」ナリ而ルニ千八百

十五年ニ於テハ和平ノ恢復ト共ニ主高四千九百五十万「パウンド」ニ増加セリ是レ全ク外國ノ需用急速ニシテ品物ヲ産出スヘキ外國工場ノ供給ヲ待ツヿ能ハサリシニ依ルナリ故ニ余輩カ一時海上專賣ノ助ケニ依テ繁殖セシ貿易（千八百十年ニ於テハ四千七百万「パウンド」ニ至レリ）ノ上ニ保護法例ノ真実純粹ナル働キヲ見ルハ実ニ千八百十六年以後ニアルナリ

千八百三十年ニ至ル迄和平ノ十五年間ニ於ケル各年ノ輸出高左ノ如シ

自千八百十六年至千八百十八年	平均	四二、〇〇〇、〇〇〇
自千八百十九年至千八百廿一年	〃	三五、〇〇〇、〇〇〇
自千八百廿二年至千八百廿四年	〃	三六、〇〇〇、〇〇〇
自千八百廿五年至千八百廿七年	〃	三六、〇〇〇、〇〇〇
自千八百廿八年至千八百三十年	〃	三七、〇〇〇、〇〇〇

千八百三十年ノ後半年間ハリバプール及マンチエストル間ノ鐵道開業アリシカ故ニ（仮令此鐵道ニ依テ増加セシ数ハ切捨テタル数ニテ差引ヘキ程ナレトモ）今表中末尾ノ三年期ヨリ千八百三十年ノ一ケ年ヲ扣除スルトキハ千八百二十八年及ヒ千八百二十九年二ケ年ノ各年平均高ハ三千六百二十五万「パウンド」ナリ但シ諸

器械ノ工夫日々ニ進歩シ且ツ貿易ヲ擴張センカ為メ
ニ種々ノ手始ナル處置ノ施行アリタリト虽モ要スル
ニ保護法例ハ少シモ変更ヲ受クルヿナク少ナクモ此
合衆王國ニ於テハ保護法例ハ恰モ中風病ノ別名トモ
云フヘキ影響ヲ及ホシタリ
右ハ甚タ架空ノ譬喩ニ似タリト虽モ是レ精密ニ其実
ニ適シタル者ナリ但シ保護法例ハ一般ニ波及スル所
ノ毒藥ナル欲將タ又新工業ニ於ケル最初ノ入資ヲ保
庇センカ為メノ食物ト見做スヘキ欲余ハ今其如何ヲ
問ハスト虽モ要スルニ未タ嘗テ此等ノ如キ穏順ナル

此態ニテアリシヲ見ナルナリ余ヲ以テ之レヲ見レハ
此法度ノ弘ク公衆安全ノ正當ナル要求ヲ靡シテ独リ
最モ私利ヲ謀ル所ノ輩ヲ保庇スルノミニシテ決シテ
其他何等ノ者ヲ保庇セシヿナキナリ又此法度ハ恰カ
モ一個ノ城郭ヲ成ス者ニシテ我産出者ハ己ムヲ得サ
ル場合ニ至レハ彼ノ全社会ヨリ剝奪セシ権勢ヲ以テ
頭足ヲ甲フヒ逆天ノ力ヲ逞フシテ天理、自由及ヒ正道
ニ逆ツテ戦ハンカ為メ概子皆此門路ヨリ進入スルナ
リ今保護法例ノ此毒ハ工業生産ニ於テ卓越セントス
ル欲望心ノ我ヨリモ一層甚シキ他ノ國ニ於テモ一様

ニ有害ナル欤ハ余ノ爰ニ言ハントスル所ニアラサル
ナリ余只惟ヘラク英國ノ富盛ト呼ヘル一種ノ植物ハ
決シテ煖室ノ内ニ於テ真ニ繁茂スヘキ者ニアラス只
宜シク之ヲ日光雨露風雪ニ暴露シ而シテ後初メテ其
生育ヲ見ツヘキナリ然レモ此等ノ解説ハ恐ラク一層
廣潤ナル論場ニ属スヘキ者ナレハ余ハ直地ニ我論域
ニ帰リ以テ当初ノ標木ヲ失ナハサルヘシナリ
余カ先第一ニ論スル所ノ時期ハ銕道事業カ自由貿易
事業ノ助ケナクシテ獨リ其働キヲ顯ハシタルノ時期
ニアリトス但シ此時期ハ千八百三十一年ヨリ千八百

四十二年ニ至ル十二ヶ年ニ亘ル者ニシテ尚ホ細カニ
之ヲ論晰センカ為メニ此十二ヶ年ヲ四分シ以テ左ニ
毎三年平均各年輸出ノ増殖如何ヲ示スヘシ

自三八百三十一年至千八百三十三年　平均三八、〇〇〇、〇〇〇磅
自三八百三十四年至千八百三十六年　〃四七、〇〇〇、〇〇〇磅
自千八百三十七年至千八百三十九年　〃四八、〇〇〇、〇〇〇磅
自千八百四十年至千八百四十二年　〃五〇、〇〇〇、〇〇〇磅

第一期ハ現ニ變革ノ際ニ当リ政事上激動ノ為メ貿易
上ニ大ナル但退ヲ受ケタル時ナリ第二期ハ一般ニ商
業ノ極メテ盛大ナリシ時ニシテ且又此年間ノ豊熟ナ

リシハ小麦ノ代價ヲ平均一「クオートル」ニ付六十四「志」ヨリ四十四「志」ニテ下落シタルヲ以テ知ルヘシ第三期ハ小麦ノ代價ハ　六十四「志」ノ旧ニ復シ且千八百三十七年ノ驚慌ヲ以テ輸出上ニ甚シキ減少ヲ起シタリ此ノ如ク穀價高直ニシテ且商業敗蹟ノ期ニ於テモ其輸出高ハ尚ホ平均一ヶ年四千八百万「パウンド」迄ニ増加シタリ第四期ハ実ニ悲シムニ堪ヘタル景況ニテアリシ一個ノ年（千八百四十二年）ヲ含ミタレモ而モ之ヲ平均スルキハ尚ホ且五千万「パウンド」迄増長シタリ今此十二ヶ年ノ全期ヲ通観スルニ戎輸出高ニ於テ第一期ト第四期トノ間ニ千二百万「パウンド」ノ増殖アリシヲ示スカ故ニ之ヲ寡少ニ積ルモ平均一ヶ年百万「パウンド」ノ増額アリシナリ蓋シ此年間ニ係ル鐵道ノ開業ハ「グランド、ジャンクシヨン」線路ノ開ケタル千八百三十七年ノ夏季ニ至ル迄ハリバプール及マンチエスタル間線路ノ外何等ノ緊要ナル開業ヲ聞カサリキ而シテロンドン。ビルミンハム。リハプール及マンチエスタルナル四大中央ノ地ヲ総テ鐵路ニテ連接スルニ至リシハ実ニ千八百三十八年ナリ千八百四十二年ノ末ニ開ケ其里数二千英里ニ達セサ

リシ者ハ未タ其力ヲ發育スルノ時日ニ乏シク又随テ其功労ヲ顯スノ遑マナカリシ者トナスヘシ然レモ又退テ他ノ側面ヨリ之ヲ見ルトキハ此等ノ線路ハ開業日尚浅ク里数亦タ短ナリト雖モ之レ新開ノ沃野ニ播種セシ者ニシテ寡モ殷富繁昌ノ地方ヲ連接セシカ故ニ其商業上ニ利益ヲ與フル一件ニ至テハ又後年ニ開カレタル線路ノ能ク及フ所ニ非サルナリ人能ク此理ヲ推考スルトキハ以テ前後年間ニ於ケル鐵道功力ノ権衡ヲ知ルニ足ルヘシ但シ鐵道運賃ノ收入高ハ余輩ニ的當ノ量衡ヲ供スル者ニシテ之ニ由テ見ルニ千八百四十六年ノ間ニハ毎一里ノ收入二千三百「パウンド」ヨリ二千五百四十「パウンド」ニ登レリ然ルニ千八百七十年ノ如キ後年ニ至テハ僅カニ二千七百九十四「パウンド」ニ達セシノミ余ハ千八百四十二年以前報告ヲ見ストト雖モ思フニ其運賃收入ハ必ス高額ニテアリシナラン以上示シタル所ノ件ハ前ニ余カ仮定セシ運輸通信原因ニ帰スヘキ我外國貿易ノ増殖ハ幾ンド毎年間断ナク連続スル者ト做スヘシトノ議論ニ甚タ緊切ナル関係ヲ有スル者ノ一ナリ

十二年間ノ第一鐵道時限ニ就テハ茲ニ先筆ヲ止メ次

ニ余輩ハ重立チタル自由貿易法例ノ挙行時限ニ就テ論スヘキナリ

自由貿易第一挙行ノ成果ハ千八百四十三年ヨリ千八百四十五年ニ至ル年間ヲ以テ其大概ヲ測量スルヿヲ得ヘシトス蓋シ其成果トシテ此年間ニハ平均一ヶ年五千七百万「パウンド」ノ輸出ヲ示セリ故ニ前ノ銭道末期ノ嵩ニ比スレハ七百万「パウンド」ノ増加ニシテ又之ヲ三ヶ年ニ平均スレハ各年二百三十三万三千「パウンド」余ノ増額ヲ成シタリ然レ𪜈前ニ余カ定メタル論基ニ原キ此内毎一ヶ年百万「パウンド」ヲ銭道勧奨ノ功ニ帰スル者トシテ加除スレハ百三十三万「パウンド」余ノ残額ハ即チ自由法例第一挙行ノ功ニ帰スル者ナリトス

千八百四十五年ニ於テ法例ニ偏セラレタル自由貿易ノ第二挙行ハ又千八百四十六年ヨリ千八百四十八年ニ至ル三ヶ年ノ短カキ時期内ニアルナリ何トナレハ則チ穀例取消ニ新航海條例ノ附属シタル第三ノ挙行ハ早ク千八百四十九年一月一日ニ来リタレバナリ此等ノ三年間ニハ輸出ニ少シノ増額モナクシテ却テ減少ヲ来タシ前年ニ五千七百万「パウンド」ナリシ輸出

高ハ此年間ニ於テハ五千六百五十万「パウンド」ニ減シタリ然レトモ此三ケ年間ニハ三大不幸ノ来リシ者アリ第一英國ノ凶歉及愛爾蘭ノ飢饉第二千八百四十七年ニ於ケル銀行條例ノ廢止并ニ商業驚慌第三千八百四十八年ニ於ケル歐州大陸ノ戦争及變革ハ大ニ我輸出高ヲ阻遏シ之ヲ千八百四十七年ニ比スルモ尚ホ六百万「パウンド」ノ減少ヲ来セリ即チ五千八百八十四万二千「パウンド」ヨリ五千二百八十四万九千「パウンド」ニ低落セリ此等ノ事情アリシカ故ニ輸出高ノ減少ハ尚ホ軽キニ止マリタル者ト云フヘシ

然レトモ我二個事業（鐵道及自由貿易）ノ合体ハ功力及各自ノ功力ヲ計筭スルカ為メニハ此三年間ヲ別途勘定ニ成サスシテ全ク之ヲ平均貿易ノ計筭中ヨリ脱却シ以テ千八百四十九年ヨリ千八百五十二年ニ亘ル所ノ自由貿易第三挙行ニ属スル次キノ時期ニ於テ其結果ヲ見ルヲ最モ良法トナスナリ

右ノ方法ニ従テ計筭スレハ左ノ如クナルヘシ即チ第三挙行ノ期ハ千八百四十九年ヨリ始マリ千八百五十三年ノ新税則及他ノ條例ノ発行アリシ自由貿易第四挙行ニ直接スル所ノ千八百五十二年ニ亘及セリ此四

年間ニ於テハ遽カニ前期ノ反動ヲ生シテ第三拳行期中（千八百四十六年ヨリ千八百四十八年ニ至ル）ニ発生セシ不幸ヲ脱シタルト千八百四十九年自由法例ノ刺衝トニ由テ我外國貿易ハ非常ノ増殖ヲ顯ハシ此四年間ノ平均高ハ七千二百万「パウンド」ニ下ラサリキ今之ヲ千八百四十三年ヨリ千八百四十五年ニ至ル年間ノ平均高ニ比スレハ実ニ一ヶ年千五百万パウンドノ増額ニシテ此内ヨリ鉄道事業ノ功力ニ帰スヘキ年々百万「パウンド」ノ合計七ヶ年分（第二拳行ノ期三ヶ年第三拳行ノ期四ヶ年）七百万「パウンド」ノ増額ヲ扣除スルモ尚ホ第二第三二期間ノ増額トシテハ百万「パウンド」ノ残額アリ即チ之ヲ七ヶ年ニ分割スル片ハ各年百万「パウンド」以上ノ増殖ニシテ之レ自由法例ノ功力ニ帰スヘキ者ナリ

自由法例第四ノ挙行ハ更ニ千八百五十年ヲ以テ始マル所ノ一期ヲ開ケリ此千八百五十三年ヨリ千八百五十五年ニ亘ル三年間ハ「クリミヤ」戦争ノ発リシニモ拘ハラス九千七百万「パウンド」ノ平均輸出高ヲ示セリ但シ七千八百万「パウンド」ノ輸出アリテ貿易甚タ旺盛ナリシ千八百五十二年ヨリ千八百五十三年ニ移リシ片ハ又二千万「パウンド」ノ洪大ナル増額アリテ総計九

千八百万「パウンド」ノ高トナレリ而シテ該戦争ノ影響ハ後ケノ二ケ年即チ千八百五十四年及千八百五十五年ニ発シ甲年ノ輸出高ハ少シモ増額ヲ示サス乙年ニ至テハ寧ロ少々ノ減少ヲ来シ千八百五十四年ノ高ハ九千七百十八万四千「パウンド」ニシテ千八百五十五年ハ九千五百六拾八万八千「パウンド」ニテアリキ今此三年間ノ平均高ヲ九千四百万「パウンド」ト積ルモ之ヲ千八百四十九年ヨリ千八百五十二年ニ至ル第三期ニ比スレハ尚ホ二千二百万「パウント」ノ甚々洪大ナル進歩ヲ見ルナリ蓋シ舶積上ニ大ナル変革ヲ起シタル航海

條例ノ取消ハ発令ノ後若干年間ニ於テハ未タ何等ノ影響ヲ生スルノ遑マナキ者ニシテ漸ク其功力ヲ顕ハスニ至リタルハ実ニ此三年間ヲ以テ始メトナスヘシ」

余ハ既ニ自由法例挙行ノ第四期迄論シ来リシカ尚ホ爰ニ千八百五十九年ヲ以テ終ハル所ノ一期限ニ就テ論ヤサルヲ得ス是レ則チ「コーテン」氏ノ頴敏ナル誘導ニ由テ成就セシ佛朗西條約ト連続シタル自由貿易第五ノ一大挙行ノ期トナスナリ夫レ「クリミヤ」戦争ノ影響ヲ脱却シテヨリ千八百五十六年ノ輸出高ハ一億千五百八十二万六千「パウンド」ニ増加シ千八百五十七年

ニ至テハ尚ホ又一億二千二百万「パウンド」ニ登リタリ而ルニ千八百五十七年ノ末ニ発シタル商業上ノ破裂ハ自然ニ千八百五十八年ニ至テ其果ヲ結ヒ此年ノ輸出高ハ再ヒ一億千八百万「パウンド」ニ低落セシカ千八百五十九年ニ於テハ一億三千万「パウンド」ニ達シタリ即チ此四ケ年ヲ平均スレバ其一ケ年ノ輸出一億二千四百万「パウンド」ナリ

今第四期第五期ノ全七ヶ年ト第三期四ケ年トヲ比較スルニ其平均一ケ年ノ輸出高左ノ如シ

自千八百四十九年至千八百五十二年	七二、〇〇〇〇〇〇〇磅
自千八百五十三年至千八百五十九年	一一九、〇〇〇〇〇〇〇磅

此比較ニ由テ見ルニ輸出ノ増額ハ四千七百万「パウンド」ノ驚クヘキ高ニ至レリ即チ之ヲ詳算シテ七ケ年ニ分當スレハ一ケ年七百七十五万「パウンド」ノ増加ナリ実ニ千八百四十九年及ヒ千八百五十三年ノ変革ハ甚タ充分ナル効験ヲ生シタル者ト云フヘシ又此自由法例ニ属スル年間ノ運輸通信力ノ働キニ就テ云ヘハ銭道里程ノ増加ハ現ニ一ケ年平均五百五十英里ヨリ三百八十英里ニ墜チタリ然レモ又此時ニ当テ海底電線ノ張皇ハ運輸通信力ノ働キヲシテ充分ノ効験ヲ顕ハ

サレメタル者ト云フヘシ蓋シ此海底電線ノ功力ハ一般ノ刺衝トナリ又便利ヲ與ヘタルノ外ニ遽ニ時日ノ大セナル省約ヲ得キ之レナクンバ若干ノ時日ヲ要スヘキ数多ノ取引ヲ瞬時ニ結束スルヿヲ得ルニアルナリ故ニ此取引速成ノ功力ニ向テ別ニ若干ノ効驗ヲ与ヘサルヘカラス且又仮令鐵道ノ里程ハ初年ノ如ク速カニハ増殖セサリシト雖モ其收入高ニ於テハ大ニ増加セシ所アルナリ即チ十八百四十六年ト千八百五十二年トノ間ニハ毎一里ノ収入高二千五百四十「パウンド」ヨリ二千百四十「パウンド」ニ抵落セシカ千八百五十二年ト千八百五十九年トノ間ニハ再ヒ二千五百七十三「パウンド」ニ回復シ斯ノ如クシテ前ニ千八百四十五年ニ於テ達シタル高ヲ超ヘテ少シク増加スルニ至レリ開業以来鐵道ノ進歩ハ凡ソ二割ニシテ年々我外國貿易ノ高ニ新ニ百万「パウンド」ヲ添加スル者ト積レバ敢テ不當ニアラザルベシ偖海底電線ノ為メニ海外取引上ノ時日ヲ省約セシニハ當ニ幾干ノ効驗ヲ附與ヘヘキ欲蓋シ甚タ困難ナル事ト云フヘシ故ニ此件ニ関シテハ只憶計ニ止マラサルヲ得ス然ラハ則チ之ヲ一ケ年五百万「パウンド」ト為スモ可ナリ一千万「パウンド」ト做

スモ亦々不可ナシト雖モ余ハ先ツ假ニ乙ノ数ヲ用ユ
ルトセハ此七年間ニ於テ鐵道事業ノ効驗ニ依シタル
前ノ七百万「パウンド」ハ増シテ千七百万「パウンド」トナ
ルヘシ今斯ノ如キ過當ノ見積リニ從ツテ計算スルモ
尚ホ外國貿易ノ増殖ニ三千万「パウンド」ノ巨額ヲ餘シ
即チ一ヶ年四百万「パウンド」以上ニ當レリ之レ全ク明
ラカニ自由法例ノ功力ニ依スル者ナリ
若シ人アリテ傳線ノ功力ハ尚ホ弘ク数十年ノ間ヲ以
テ定ムヘキ者ナリト云ハヽ其議論ハ此確著ナル時期
ニ関シタル他ノ一層簡短ナル議論ヲ以テ答フヘキナ

リ
今ヤ余輩ハ既ニ自由貿易ノ方向ニ於ケル第一第二第
三及第四ノ進行ニ就キ論シ竭シタレモ尚ホ爰ニ千八
百六十年ノ一大擧行ニ就テ論セサルヘカラス偖此最
後ノ時期ニ至テハ二個ノ新困難ト爭ハサルヲ得ス其
一ハ新規ノ発生物ニテ彼ノ亜米利加ノ大内亂ノ働キ
ニ由テ棉ノ供給ニ驚クヘキ不意ノ減縮ヲ起シ当メト
強テ我輸出ヲ減殺セシ事之レナリ此件ニ就テハ詳細ニ
論スル所アルベシ然レモ他ノ困難ハコレ迄此紙上ニ
於テ用ヒ来リタル論序ノ根ニ関セルヿナリ夫レ是

レ迄自由貿易法例各次擧行ノ影響ヲ量ルニハ現ニ論
スル所擧行期ト其次ノ擧行期トノ間ニアル所ノ年
間ニ係ル輸出ノ增殖ヲ以テシクリキ即チ千八百四十
二年ヨリ千八百四十五年ニ至ル三ヶ年又千八百四十五
年ヨリ千八百四十九年ニ至ル四ヶ年千八百四十九年
ヨリ千八百五十三年ニ至ル四ヶ年千八百五十三年ヨ
リ千八百六十年ニ至ル七ヶ年等之レナリ然レ𪜈既ニ
千八百六十年後ニ至テハ前途ニ此試驗年間ヲ定ムヘ
キ大季節ナキヲ以テ余ハ當ニ何等ノ年間ヲ用ユヘキ
歟ヲ知ラザルナリ故ニ余ハ虛シク一個ノ試驗年間ヲ
憶定スル一手段アルノミ然ラハ則チ余ハ四年若ク
ハ三年ノ短キ年間ヲ採ランヨリモ寧ロ千八百六十年
ヨリ千八百六十六年ニ至ル七ヶ年ヲ採ルヘキナリ而
メ其理ニアリ第一千八百六十一年及千八百六十二年
ノ両年間ハ亞米利加戰爭ノ故ヲ以テ全ク試驗年間ト
シテ用ユルニ當ラス第二千八百六十年ノ商業條約ハ
數ケ國ニ於テ自由法例ノ採用ニ刺衝ヲ与ヘタルノ故
ニ此條約ノ影響ヲ試ムルノ適当ナル量器トシテノ短
キ年間ヲ用ヒンヨリモ寧ロ長キ方ヲ之當ノ者トナス
ナリ

余カ今日ニ新法例カ外國貿易ノ上ニ與ヘタル真正ノ
衝力ヲ適當ニ測知スル「ヲ得ル者トシテ採用シタル
千八百六十六年ニ至ル七ケ年ヲ全一期トシテ積ハリ
ハ此期ノ総輸出高十億四千六百七十万「パウンド」ニシ
テ即チ平均一ケ年ノ高ハ一億四千九百五十万「パウン
ド」ナリ之ヲ千八百五十三年ヨリ千八百五十九年ニ至
ル七ケ年平均ノ各年輸出高一億千九百万「パウンド」ニ
比スレバ総増高三千五十万「パウンド」ニシテ一ケ年ノ
増高ハ幾ント四百五十万「パウンド」ニ當レリ此内前ノ
規定ニ従ヒ鐵道ノ功力ニ帰スヘキ者ヲ扣除スレハ残
リ三百五十万「パウンド」ハ全ク自由貿易ノ功力ニ帰ス
ヘキ者ナリ
然リト雖モ一時我國最大製造ノ脈道ヲ妨ケタル亜米
利加内亂ノ事情ハ此年間ノ貿易景況ヲシテ啻ニ法外
ノ者トナセレノミナラス尚例外ノ者トナセリ但シ此
七年間ノ最大輸出ハ千八百六十六年ニシテ其高一億
八千八百万「パウンド」以下ニ下レリ又千八百六十年ノ
貿易ハ其年ノ凶歉ニモ拘ハラハ自由関税ノ勧奨ノ効
ケテ直チニ一億三千万「パウンド」ヨリ一億三千五百万
「パウンド」迄登リシカ千八百六十一年ニ至テハ全年新

例ノ利益ヲ受ケタルモ其輸出高ハ一億二千百万「パウンド」ニ下レリ即チ千八百五十九年ノ輸出高ニハ五百万「パウンド」不足セシ高ナリ

所謂棉ノ饑饉ハ明カニ此低落ノ原因ト做スヘシ這亜米利加ニ於テノ戰爭ハ合衆國過半ノ港ヲ閉塞セシカ故ニ我國力亜米利加ニ仰ク所ノ供給ヲ妨ケタル如ク又我輸出ニ大ナル妨碍ヲ為シ千八百五十九年ニハ四千八百万「パウンド」ニ達シ千八百六十年ニ於テハ五千二百万「パウンド」ニ迄登リシ所ノ我棉ノ輸出ハ千八百六十一年ニ至ル（戰爭ハ此年ノ四月ニ始マレノ）俄然四千七百万「パウンド」以下ニ下リ千八百六十二年ニハ三千七百万「パウンド」ノ以下ニ墜タリ而シテ千八百五十六年ヨリ千八百五十九年ニ至ル四年間ニハ平均千九百五十万「パウンド」ニテアリシ合衆國ニ向テノ輸出総高ハ千八百六十一年ヨリ千八百六十年ニ至ル二年間ニハ平均千百五万「パウンド」ニ減却シタリ然ラハ則此二年間ニ於テ一般貿易ノ上ニ与ヘラレタル刺衝カ如何ヲ判定センカ為メニ之ヲ則ノ千八百五十六年ヨリ千八百五十九年ニ至ル四年間ニ比較シテ均方ヨリ我棉ノ輸出及亜米利加合衆國ニ向テノ我輸出総高ヲ

扣除セサルヘカラサルナリ

然ルニ此四年間ノ総輸出高ハ平均一億二千百五十万「パウンド」ニシテ此内棉（製貨及糸類）ノ輸出高ハ四千二百万「パウンド」ナリ之ヲ減スレハ棉ヲ除キタル他ノ輸出高ハ平均七千九百五十万「パウンド」トナルナリ然レモ合衆國ニ向テノ我総輸出高ハ平均千九百五十万「パウンド」ナルカ故ニ尚又之ヲ減除スルトキハ我輸出高ハ僅カニ六千万「パウンド」トナリ

偖千八百六十一年ヨリ千八百六十二年ニ至ル二年間ノ平均総輸出高ハ一億二千四百万「パウンド」ナノ又棉ノ平均輸出高ハ四千百七十五万「パウンド」ニシテ合衆國ヘ向テノ平均輸出高ハ千百五十万「パウンド」ナレバ今其比較ヲ組立テンニスルニ一億二千四百五十万「パウンド」ノ内ヨリ前両数ノ合計五千三百二十五万「パウンド」ヲ減セサルヘカラス然ルトキハ前両期ノ比較左ノ如シ

自千八百五十六年至千八百五十九年　相減セシ輸出高　六〇、〇〇〇、〇〇〇ノ磅

自千八百六十一年至千八百六十二年　同上　七〇、〇〇〇、〇〇〇ノ磅

此表ニ徴レハ後ノ二年間ハ棉ノ不作ニ由テ世界中ノ貿易上ニ蒙ムラセタル困難ニモ拘ハラス一般ノ貿易

上ニ一ヶ年千七十五万「パウンド」ノ増額ヲ生シタリ斯ノ如クニテ生起シタル増額ハ充分正當ナル影響ヲ示スヿ能ハスト雖モ又一方ヨリ之ヲ觀察スル片ハ一條目ニシテ二重ニ可減数中ニ包含スルカ為メニ稍ヤ才嘗ノ利益ヲ得ル所アリ即チ之ヲ詳言スレハ合衆國ニ向テノ輸出ハ棉ノ條目ハ重ネテ二箇ノ可減数中ニ含マルヽカ故ニ稍ヤ其合数ヲ過大ニスルナリ蓋シ余カ手中ニアル所ノ材料書類ヲ以テハ一層精密ナル解説ヲ為スノ手段ナシト雖モ今爰ニ示シタル所ノ数ニ此點ニ関シ少シ相當ノ有餘ヲ附スル片ハ稍ヤ真ニ近キ

増殖ヲ顯ハシ以テ自由法例ノ刺衝力ヲ示明スルニ足ル者ト做スヘシ

然レモ此二年間ハ全ク例格外ノ者ニシテ只ニ此年間ヲ含ミタル我外國貿易ノ一般繁殖ノ説明ヲ攪擾スルニ止マル者タルヤ明カナリトス故ニ此七年間ノ繁殖ヲ定メンカ為メニハ只千八百六十年一ヶ年ト千八百六十三年ヨリ千八百六十六年ニ至ル四ヶ年ト合シテ五年間ノ上ニ就テ平均ヲ取ルヲ以テ良法トナスヘシ

最モ千八百六十三年及ヒ千八百六十四年ノ二ヶ年モ亞米利加戦争ノ為メニ屢ク妨害ヲ受ケタリト雖モ生

棉ノ輸入ハ駸々トシテ増殖ノ途ニ就キタルカ故ニ之レ寧ロ豈凶兩年ノ間ニ位セル平年ノ部ニ入レヘキ者ニシテ決シテ例外ノ者トシテ論スヘカラサルナリ然リ而シテ今此五ケ年間ノ貿易平均高ヲ見ルニ一億五千九百五十万「パウンド」ナリ之ヲ千八百五十三年ヨリ千八百五十九年ニ至ル七年間ノ平均高一億千九百万「パウンド」ニ比較スルニ其増高四千五十万「パウンド」ニシテ此内前ノ如ク鐵道ノ功力ト定メシ七百万「パウンド」ヲ扣除シ残数三千三百五十万「パウンド」ハ即チ自由法例ノ功力ニ帰スヘキ者ニシテ一ケ年平均幾ンド四百七千五万「パウンド」ニ當レリ

今ヤ余輩ハ既ニ千八百六十六年ノ終リ迄論シ来リシカ尚ホ當年ヨリ今年（千八百八十年）ニ至ル迄今既ニ十三ケ年ヲ経過シタリ而シテ此内千八百六十七年ヨリ千八百七年ニ至ル最初ノ四年間ニハ何等ノ大事変モ興ラサリシカ故ニ試驗年間トシテ用ユルニ最モ適当セル者トナスナリ但シ千八百六十六年ニ於テハ一億八千九百万「パウンド」ナリシ輸出高ハ千八百七十六年ニ至テハ一億九千九百万「パウンド」ニ登リ即チ一ケ年二百五十万「パウンド」ノ平均増額ヲ示セリ今若シ亜米利

加戦争ノ故ヲ以テ千八百六十一年ヨリ千八百六十三年ニ至ル三ケ年ヲ脱除シ千八百六十七年ヨリ千八百七十年ニ至ル四年間ノ平均高ヲ以テ千八百六十七年ヨリ千八百六十六年ニ至ル三年間ノ平均高ニ比較スレハ甲ハ一億八千七百万「パウンド」ニシテ乙ハ一億七千二百万「パウンド」ナリ然ラバ則チ其増高ハ四百万「パウンド」ニ足ラサル者ニテ自由法例新挙行ノアリシ年間ヨリハ實ニ若干ノ下ニ位スルノ数ナリ

今此穿鑿ヲ千八百七十年ノ如キ遠キ以前ヲ限リトシテ止ムルヲハ確ニ疑惑ヲ惹クノ基タルヘシト雖モ

抑モ亦タ所以ナキニアラサルナリ但シ後ノ八年間ハ現ニ目的トナス所ノ議論ノ解釋トナルヘキ便ナキ者ナレハナリ其詳細ヲ挙レハ千八百七十年ニ於テ二億「パウンド」ナリシ我輸出高ハ後ノ二年間ニ於テハ二億五千六百万「パウンド」ニ増加シ尚又次ノ二年間ニハ此高ニテ止マリシニ續ク五ケ年間（千八百七十四年ヨリ千八百七十八年ニ至ル）ニハ直段及ヒ数量ノ低落ニ依テ一億九千三百万「パウンド」即チ千八百七十年ヨリ七百万「パウンド」不足ナル高ニ迄減却シタリ且又此八年間ニハ砂糖ノ貿易ハ全ク関税ヲ免除セラレ（千八百七

十四年 穀物ノ洪大ナル貿易ハ四歩若クハ五歩ニテアリシ所ノ保護税ノ殘部ヲ免カレ以テハ千万「パウンド」ノ輸入高ヲ興起シタリト雖モ（千八百七十八年）鐵道ノ増殖ハ却テ減少シ各年ノ増殖ハ二百二十英里ノ割ニ過キサリキ然リト雖モ此時ニ方テ「スエズ」ノ堀河ハ新タニ運輸通信ニ一層ノ力ヲ添エ且外國鐵道ノ張皇甚タ洪大ニシテ千八百七十八年六月刊行統計会雑誌ニ由レハ千八百六十五年ニ於テハ仏朗西、日耳曼、澳地利、魯西亜四ケ國ノ鐵道里程二万千八百二十四里合衆國三万五千百里ナリシカ千八百七十五年ニ至テハ四ケ國五万三千百里合衆國七万五千里ニ登レリ電線ノ架設復々寡モ盛ナリシ又政事上ノ困難凶歉及非常ノ投機業等ハ総テ事物ノ秩序ヲ攪乱セシ者ニシテ或ハ物價ノ下落特ニ鐵及石炭ノ下落ハ我商業歴史上ニ於テ幾ント其比類ナキ程ナリキ夫レ此等ノ数事物カ紛々トシテ雑起セシカ故ニ余ハ千八百七十年ニ至ル迄ハ我商業ノ繁殖ヲ充分ニ溯原探究スルヿヲ得レモ以後ノ八年間ニ関シテハ到底此各自駁雑ノ事状ヨリ以テ其一般大体ノ状況ヲ発見スルヿ能ハサルナリ而モ若シ之ヲ発見スルヿヲ得ハ恐ラクハ千八百七十年以後ニ於テ疑ナク真ノ繁殖ヲ見ルヘシトハ思考スレモ余輩ハ只憶断推測ノ外ニ如何ナル量器アル歟ヲ知ラサルナリ蓋シ一度

進捗ノ途ニ就キ加之既ニ確固動カスヘカラサル者トナリテ我諸報告上ニ就テモ判然見ルヘキニ至リシ以上ハ千八百七十一年ヨリ千八百七十九年ニ至ル年間ヲ総括平均シテ不可ナカルヘシト雖モ其確カニ進捗ノ途ニ向ヒタルヲ確知セサル間ハ未タ空漠ヲ免カレサルナリ

然リト雖モ今其最モ真ニ近キ者ヲ擧ケンニ千八百七十一年ヨリ千八百七十八年ニ至ル八年間ノ平均ハ幾ント二億二千万「パウンド」ニシテ假リニ之ヲ真ノ繁殖ト見做シ以テ千八百六十七年ヨリ千八百七十年ニ至ル年間ノ一億八千七百万「パウンド」ト比較スルトキハ此九ケ年間ノ増高三千三百万「パウンド」ニシテ即チ一ケ年平均三百五十万「パウンド」餘ニ當レリトス然リ而シテ此本高ハ既ニ疑ハシキ者ナルニ尚又夫々ニ法例及鐵道原因ニ仮スヘキ功驗ノ割合ヲ憶定スルヿスラ又更ニ大ナル困難事ナリト雖モ今概シテ此年間ノ景状ヲ究覈スレハ正シク一個ノ結論ヲ惹キ得ヘシ曰此年間ノ平均増殖ハ新々ニ自由法例ノ擧行アリシ年間ノ増殖ヨリ較々少量ノ者ナルヘシト而シテ此結論ハ尚以下ノ説明ニ由テ愈々其実ナルヲ証スヘキナリ

仮令其効ハ較々少ナキモ自由法例ノ結果ヲ測算スル
最モ簡短ナル方法ハ其各次挙行後第一年ノ貿易ヲ以
テ其挙行前一年ノ貿易ニ比較スルニアリトス然レモ
此論域ハ餘倫ニ過クル者ト云フ可シ何トナレハ則
チ単ナル一個年ニ於テハ法例新挙行ノ効驗ヲ商業上
ニ及ホスヘキ充分ノ遑マナケレハナリ又最粗漏ノ測
算ナルヘシ何トナレハ則チ法例ハ挙行ノ日ヨリ効驗
ヲ顕ハスヘキ者ニアラサルカ故ニ右ノ方法ニ従テ算
スルトキハ十二ケ月ノ一小部分ヲ顕ハスニ過キサレハ
ナリ偖千八百四十二年ニハ挙行後最早餘日ナカリシ
カ故ニ千八百四十三年ヲ以テ千八百四十二年ニ挙行
セシ新税則後ノ第一年ト見做シ左ニ簡略ナル表ヲ製
シテ此方法ニ従ヒタル測算ノ結果如何ヲ示スヘシ但
シ此結束タル最モ不完全タルヲ免カレスト雖モ亦々
以テ余カ前ニ示シタル結論ノ真偽ヲ窺フニ足ルヘキ
ナリ

自由法例各次挙行ノ前年	輸出高	自由法例各次挙行ノ翌年	輸出高
千八百四十二年	四七、二八四、〇〇〇磅	千八百四十三年	(イ) 五二、二〇六、〇〇〇磅
千八百四十四年	五八、五三四、〇〇〇仝	千八百四十五年	(ロ) 六〇、一一、〇〇〇仝
千八百四十八年	五二、八四九、〇〇〇仝	千八百四十九年	(ハ) 六三、五九六、〇〇〇仝

千八百五十二年	七八〇七六〇五〇〇磅
千八百五十九年	一三〇〇四二一〇〇〇〇全
千八百五十三年	(ニ)九八九三三〇〇〇磅
千八百六十年	(ホ)一三五八九一〇〇〇〇磅

(イ)ノ前年ヨリ増高ハ四百九十二万二千「パウンド」ニシテ(ロ)ハ百五十七万七千「パウンド」(ハ)ハ千七十四万七千「パウンド」(ニ)ハ二千八十五万七千「パウンド」(ロ)ハ五百四十四万「パウンド」ナリ

右ノ額ニ於テ甚タシキ差違アル者ハ之レ即チ前ニ余カ略論シタル第二段ノ原因ニ因テ然ル者ナリ即チ(ハ)ノ場合ノ如キモ千八百四十八年ノ貿易ハ欧洲ノ戦乱及変革等ニ依テ無比ニ妨害セラルタレハ先ツ假リニ千八百四十八年及千八百四十九年ノ代トシテ千八百四十九年及千八百五十年ヲ比較スルモ尚七百七十七万一千「パウンド」ノ洪大ナル増高ヲ得ツヘキナリ然レ氏今先ツ原數ニ従テ計算スレハ重ナル自由法例擧行ノ結果ハ此五期(此内四期ハ擧行ノ期十二ヶ年ニ満タス)ニ於テ通計四千三百五十八万三千「パウンド」即チ各期平均八百七十一万六千六百「パウンド」ヲ我輸出高ニ増加セシ割ナリ又千八百四十二年ヨリ千八百七年ニ至ル緋年間ノ平均一ヶ年ノ増額ハ幾ンド四百四十万「パウンド」ナリ之ニ由テ是ヲ觀レハ自由法例ノ一般功力ハ十二ヶ月間ニ於テ

幾ント増殖平均ノ割合ヲ二倍セシ者ナルヲ知ルヘシ
然リ而シテ余ハ此實事ノ確實ナルヤ決シテ爭ヒ議マ
ヘカラサル者ナリト思考スルナリ蓋シ又此時ニ方テ
斯ノ如キ洪大ナル増殖ノ分解トナスニ足ルヘキ鐵道
事業ノ繁殖アリシトシテ之ヲ推測較量セントスルハ
徒ラニ勞ヲ好ム者ニアラサルヲ得シヤ故ニ余ハ此洪
大ナル増殖ノ全部ヲ將テ渾テ自由法例直接ノ効力ニ
皈着セントスルノ他ナキナリ
既ニ已ニ自由貿易全期限ヲ畧叙シ之ヲ第一鐵道時期
ト比較シテ講覈シタル詳細ナル議論ヲ尚又一層明白

ニ証明スルノ方式ヲ發見セン[ヿ]ハ充分當然ノ業ニシ
又著シキ利用ノ者ナルヘシ
夫レ千八百三十年ヨリ千八百四十二年ニ至ル鐵道第
一期内ニ於ケル我年々ノ輸出ハ總テ五百万「パウンド」
ニシテ幾ント百万パウンドノ増殖ヲ為セシカ其後自
由貿易及鐵道事業ノ相連結シテ貿易ノ業ヲ助ケタル二
十八ヶ年間ヲ經過シ千八百七十六年ニ至テハ輸出高
一億九千九百五十万「パウンド」ニ登レリ即チ凡ソ二
億「パウンド」ナリ而シテ回顧スルニ保護法例ノ時代ナ
リシ原初起業ノ高ハ千八百三十一年ヨリ千八百三十

※校正ノ数ハ恐ラク違算ナリト思ハレ判然改キ証據ナキヲ以テ姑ク原数ニ従フ

三年ニ至ル）三千八百万「パウンド」ニテノリシカ故ニ二種事業ノ併ヒ行ハレシ二十八ケ年ノ各年平均ノ増高ハ※五百二十五万「パウンド」ナリ（鉄道事業単個行ナハレシトキハ百万「パウンド」ノ増高ナリ）之レニ由リテ見レハ一億六千二百万「パウンド」ノ総増高ヨリ概算四千万「パウンド」即チ総高四分ノ一ヲ鉄道事業ノ効ニ係ル者トシテ加除スルモ尚ホ自由法例ノ効ニ帰スルノ増額トシテ一億二千二百万「パウンド」即チ総高四分ノ三ヲ残セリ

然リ而シテ前ニモ既ニ陳叙セシ如ク電線ノ商業取引ヲ迅速ニナラシメタル効ニ向テ若干ノ増高ヲ帰セサルヘカラス加之鉄道運賃ノ海一里収入高ニ於テモ凡ソ前高三分ノ一モ増額セシナラント思ハル（余ハ未タ千八百七十九年ノ精細ナル計算表ヲ見ス）然リ鉄道事業ノ効力ハ増シタリト雖モ亦タ其築造里数ノ増長ニ於テ減シタル所アレハ其貿易ノ総体ニ関スルニ至テハ幾ント増減相償フノ模様タルナリ且又運輸通信事業或者ノ効力ハ漸ク年一年ヨリ増長セシ「アルモ退テ自由法例ノ状況ヲ顧ミレハ絶エス貿易ノ方法ヲ改良シ駸々トシテ日ニ発育ニ至ルヲ見ルナリ然リト雖モ今先ツ鉄道事業効力ノ増

長ヲ許シ尚前ノ高ニ一千万「ポウンド」ノ添加シテ我貿易上ニ五千万「ポウンド」ノ増殖ヲ與ヘタリトスルモ尚一億千二百万「ポウンド」ノ自由法例ノ効力ニ皈スヘキ者アリ即チ總増高ノ三分ハ甲ノカニ依ル者ニシテ其七分ハ乙ニ皈スヘキ者ナリトス

由是觀之真正ナル經濟學ノ効力ハ彼ノ運輸通信改良ノ為メニ自然學ノ發育ニ用ヒラレタル發明工夫ノ才智ノ効力ヨリモ遙カニ勝レル者ナリト斷言セサルヲ得サルナリ

余カコレ迄ニ示シタル論理証明ノ蹤ニ於テハ往々或ハ過少ヲ採リ或ハ過多ヲ許ス等ノ事アリテ充分確實正當少シモ間隙ナキ者ニアラサルヿヲ知ルト雖モ要スルニ其総体ニ就テハ互ヒニ相縁ラサル三様ノ方法ニ由テ之ヲ論シタレハ蓋シ又誤マリナキニ幾キシトセンカ即チ

第一 自由法例ノ各次舉行ヲ互ヒニ相比較シ又之ヲ以テ純ラ鉄道ノ時限ナリシ千八百三十年ヨリ千八百四十二年ニ至ル年間ト較量シタリ

第二 自由法例ノ全時限（千八百四十二年ヨリ千八百七十年ニ至ル）ト純粋鉄道時限（千八百三十年ヨリ千八百

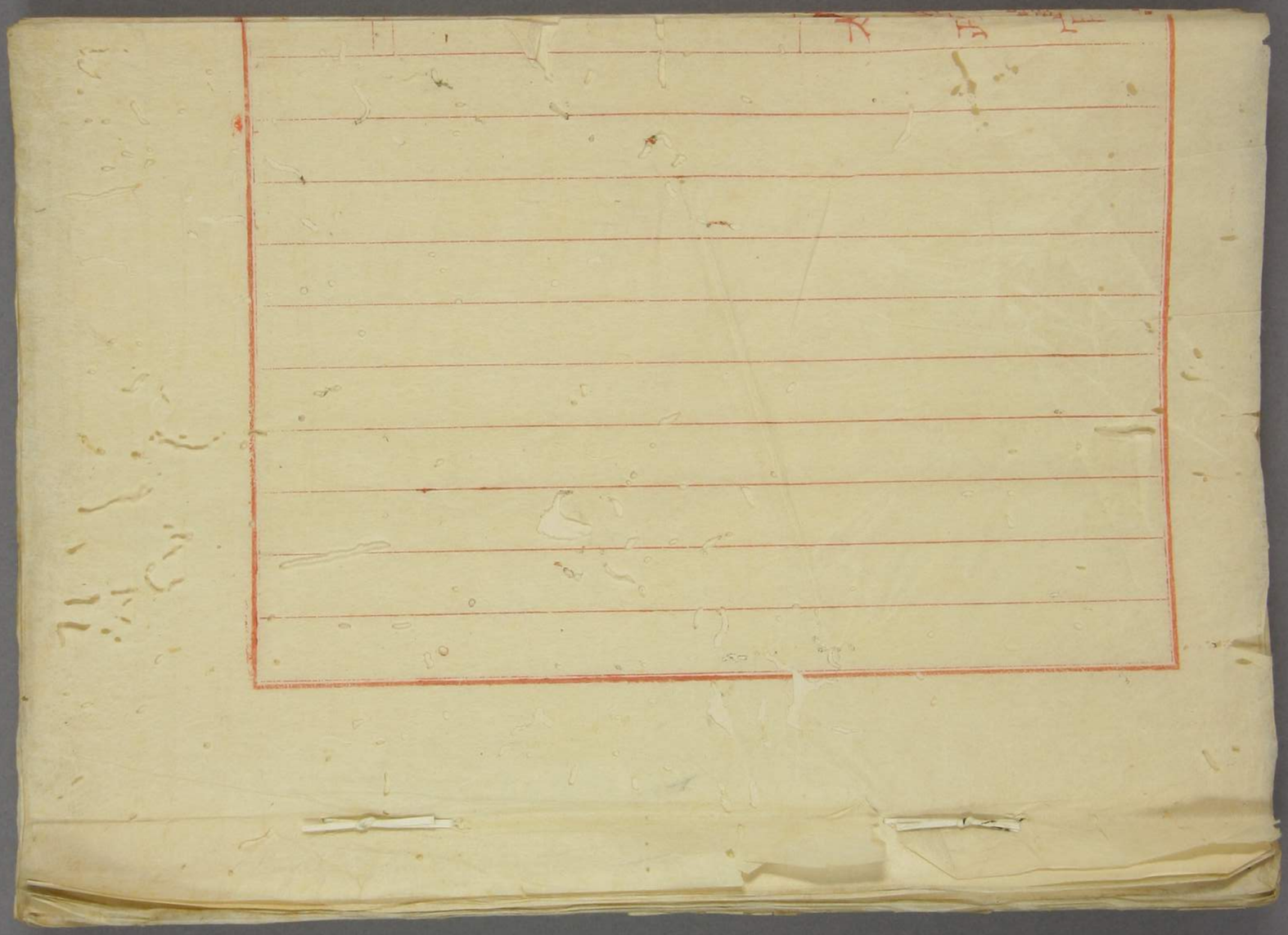
四十二年ニ至ル）トヲ比較セリ

（第三）重要ナル法例変革ノ各場合ニ於テ其前一ヶ年ト後一ヶ年トヲ比較セリ

後令右三様ノ論述ハ精細ナル統計學者ニ依テ此結論ヲ保支スルニ不充分ナル者トシテ擯斥サルヽモ此三様ノ論述カ何レモ皆ナ之ニ符合スルヿハ以テ其重ミヲ支フルニ足ルヘシト信スルナリ

或ハ言ハン自由貿易主義カ我國立法ノ基本ト確定セシ以上ハ此ノ如キ議論ハ只ニ學理上ニ利益ヲ與フル者ニ過キスト仮令令我國ニ於テハ然リトナスモ實ニ此議論ハ夫ノ國ヲ蠹蝕スヘキ保護法例ニ執迷ニ却テ之ヲ失ハサルヲ以テ策ヲ得タリトナス所ノ他國ノ政府及市民ニ取リテハ大ニ實益トナルヘキ者ナリ千八百七十八年六月刊行ノ統計雜誌ニ於ニユーマーテ氏ハ保護法施行ノ四大國貿易ト我合衆王國貿易トノ比較表ヲ載セタリ余カ此冊子ヲ以テ其貴重ナル表ニ對スル件ハ余カ冊子ヲ指シテソレカ附録ト云ハンモ不可ナキナリ但シ此表ハ我國ニ於ケル自由貿易ヲ以テ佛朗西、澳地利、魯西亜及合衆國ニ於ケル保護法ニ比スレハ其結果ノ啻ニ宵壤ノミナラサルヲ示セシ者ナリ

或人曰自由貿易ハ之ヲ他國ニ用ヒテ有害ニシテ獨リ英國ニ於テ害ナキ者ナリ何トナレハ則英國ハ從來保護法ノ力ニ依テ大ナル進捗ヲ效シ今ヤ自由貿易ノ施行スルモ害ヲ受ケサルノ域ニ達シタレハナリト其口實ノ拙劣ナル恰モ彼酒癖家ノ痴話ニ似タリ未タ其癖ヲ改メサル大酒家カ既ニ之ヲ悔悟シタル大酒家ニ向テ曰君ハ從來ニ大酒ヲ用ヒタルカ故ニ漸ヤク積ンテ其身体ヲ堅固ニシ今ニ於テ改ムルモ最早其害ヲ受クルヿナシト雖モ吾ノ酒瓶ヲ傾ムクルヿ未タ其數多カラサルカ故ニ今遽カニ之ヲ改メントス豈ニ害ノ起ラサルナカランヤト知ラス世人ハ此言ヲ以テ理アリトナスカ夫レ千八百四十二年以前ニアリテ我國工業ノ最モ盛ナリシ者ハ棉ニアリトス而シテ其千八百四十一年ニ於テハ幾ント我總輸出高ノ半ヲ占ムルニ至レリ（總輸出高ハ五千百万パウンドニシテ棉ノ輸出高ハ二千三百五十パウンドナリ）若シ此時ニ當テ輸出税ナカラシメハ恐ラクハ尚ホ多額ニ至リシナラン然ルニ棉製造業ノ斯ク繁盛ナリシヲ以テ保護税ノ效ナリトト云フ者アレモ決シテ然ルニアラサルナリ蓋シ棉ノ製造ハ外國出賣ヲ重ニスルノ一點ニ於テ大ニ他品ニ異ナル所アリ故ニ我國製造業ノ中棉ノ如キ最モ旺盛ナ

リシ者ハ保護ヲ受クルヿ最モ少ナカリシナリ加之棉ノ
製造ハ最モ被苦タル貿易ナリト云フモ敢テ評言ニアラス何トナレハ則千八百四十二年迄ハ未製品ノ上ニ輸入税ヲ課セラレタル而已ナラス尚又近頃迄ハ掛畫棉布ノ上ニ國産税アリキ然レモ余ハ此點関シテ論スルヿヲ要メス只其結果如何ヲ問フノミ曰自由貿易製度ノ下ニハ仮令棉ノ工業ハ獨立ノ繁殖ヲ效シタリト雖モ我輸出貿易中棉製造カ占ムル所ノ割合ニ於テハ次第ニ減少ニ趣キタリトス但シ千八百七十二年ヨリ千八百七十二年ヨリ千八百七十三年ニ至ル二ヶ年ニ至テハ我輸出貿易高ノ三分ノ二ニモ下レリ又千八百七十四年ヨリ千八百八年ニ至ル年間ニ於テハ幾ント總高ノ三分ノ一即チ三割三歩ニ止マリタリ然ラハ則チ總体ヨリ比シ来レハ之ヲ衰ヘタリト云ハサルヲ得ンヤ蓋シ棉ノ工業ハ自由貿易ノ全利ヲ受クルヿ能ハス既ニ已ニ其以前ヨリ他ニ先テ其利益ノ幾分ヲ受ケ居タレハナリ之ニ由テ是ヲ見レハ貿易ノ業未タ盛大ニ至ラサリシ時ニ於テ保護法例ノ利益ナリト誇示スル所ノ者ハ則チ工業ノ中ニ就テモ最モ保護サルヽヿ少ナカリシ者ニシテ其故ニ他ニ超エテ獨リ此盛大ヲ效シ

タルナリ喩ヘハ我國ニ於ケル他ノ貿易ハ恰カモ全躰ヲ襁褓ノ内ニ包マルヽカ如ク棉ハ其右手ノ自由ヲ得タル者ナリ然リ而シテ襁褓ハカノ潛ハ所ニシテ彼ノ半躰襁褓ノ内ニ包マルヽ所ノ小児カ既ニ生長シテ其全躰ヲヲ脱スルニ至テ然ル後其弟妹モ亦漸ク脱出ノ途ニ就クト云フヨハ寔ニ自然ノ勢ニアラスヤ今保護法ヲ以テ一個ノ後見人ニ喩エンカ其幼弱者ノ財産ヲ生スル所ノ利益ヲ以テ自己ノ懐裏ニ私スル人ナリトスルニ亜米利加及其他諸國ニ於テ只管保護法ヲ庇護スルハ恰カモ斯ノ如キ後見人ニ年金ヲ與ヘントスルカ如シ何ソ之ヲ訟底ニ引出シ而シテ之ニ責罰ヲ加ヘサル中